

高島株式会社

事例紹介

基幹システム再構築に伴うBIツールの刷新でDr.Sum EAを採用 OBIC7との連携による豊富なデータの分析で業務効率を改善

建築・土木資材から太陽エネルギー、産業資材、アパレルまで、多角的専門商社として、幅広い事業を展開している高島株式会社（以下、高島）。基幹システムをメインフレームからOBIC7にオープン化するのに伴い、BIツールを刷新することを決定。ウイングアークのBIコンサルティングサービスを利用して、Dr.Sum EAを採用した分析システムを構築した。これにより、経営層から営業部門、管理部門の現場まで、業務効率を改善した。



✓ 採用の背景

- 基幹システム再構築に伴うBIツールの刷新

✓ 導入ポイント

- 豊富な導入実績とOBIC7との連携性
- 開発や実装におけるスピード感
- BIコンサルティングのサポート

✓ 導入効果

- 分析できるデータの種類が豊富になった
- 多彩な機能と容易な操作性で業務を効率化
- データの抽出・集計作業から解放された
- 分析処理のスピードアップが図られた

Company Profile



高島株式会社

創業 :1915年10月1日
所在地 :東京都中央区
事業内容 :太陽光などの再生可能エネルギー利用システム、環境配慮型の建築資材・住宅設備機器、建築・住宅に関連するトータルソリューションを提供する「建材事業」と、樹脂製品や環境に配慮した設備、アパレルビジネスなどの「産業資材事業」を展開
URL :<http://www.tak.co.jp/>

Interview



経営管理本部 経営企画統括部
システムユニット チーフ 谷沢 修 氏

Surprise! Dr.Sum EA導入後の驚きの声!

Before

「現場の担当者からレポートの作成依頼が来ると、基幹システムから直接データを抽出、集計し、レポートを作成して、現場の担当者に提供しなければならなかった。この作業に時間がかかり、提供できるデータも限られていた」

After

「OBIC7から抽出、集計されたデータが、あらかじめDr.Sum EAサーバー上に網羅されていることから、データを抽出、集計して、レポートを作成する作業が軽減された」

2015年に100周年を迎える高島 サステナビリティで社会に貢献

2015年に創業100周年を迎える高島株式会社（以下、高島）では、建設資材、太陽光発電システム、断熱材、産業用資材、アパレルなど、多角的専門商社として、建材事業および産業資材事業という大きく2つの事業を展開。事業の中核として大きな割合を占めているのは建材事業であるが、中でも太陽光などの再生可能エネルギーを利用したシステムに注力しており、100周年に向けた各種プロジェクトや営業展開を推進している。

取り組みのひとつとして、中期ビジョン「サステナ100」を推進。「太陽エネルギー」「断熱・省エネ」「高機能素材」の3つの専門領域で、サステナビリティの先進商社として、環境配慮事業の強化に取り組むとともに、社会に貢献することを目指している。

導入実績を評価してDr.Sum EAを採用 開発や実装のスピード感も高く評価

高島では、メインフレームで独自に開発した基幹システムを運用していた。しかし2010年に、基幹システムのオープン化を実施。同時に基幹システムのデータを分析していた他社製のビジネス・インテリジェンス（BI）ツールを刷新することも決定した。経営管理本部 経営企画統括部 システムユニット チーフの谷沢 修 氏は、次のように語る。

「以前よりBIツールは使用していたので、その必要性は理解していました。今回、基幹システムにオービックの統合業務ソフトウェアであるOBIC7を導入するにあたり、新たなBIツールの導入を検討していました。そのときオービックから紹介されたのがDr.Sum EAでした」

Dr.Sum EAの採用を決めた理由を谷沢氏は、「特に評価したのは導入実績でした。デモも見せ

高島株式会社

事例紹介

でもらいましたが、多彩な機能が搭載されていることや処理能力、信頼性なども評価しました。以前のBIツールとは、開発も実装もスピード感が違うと感じました」と話している。

OBIC7や周辺システムのデータを網羅BIコンサルティングの活用で短期導入

高島では、2010年3月より、OBIC7の導入とともにDr.Sum EAの検討を開始し、4月にOBIC7およびDr.Sum EAの採用を決定。OBIC7の導入を経て、2011年11月より、Dr.Sum EAの導入を開始し、2012年4月には本番稼働を迎えている。Dr.Sum EAを採用した分析システム構築について谷沢氏は、次のように語る。

「今回、導入から本番稼働まで、あまり期間がなかったので、ウイングアークのBIコンサルティングサービスにサポートをお願いしました。Dr.Sum EAは、使用できる機能が多いため、操作を覚えるのには少し時間が必要でしたが、最初に4～5種類の表を一緒に作りながら操作方法を覚え、後はすべて社内内で開発しました。サポートもレスポンスがよく、的確だったので、大きな問題もなく短期間で分析システムを構築できました。BIコンサルティングサービスは、利用してよかったと思っています」

構築された分析システムでは、OBIC7から売上、仕入、在庫、請求、債権、債務などの販売管理データや、経費データや業績データなどもDr.Sum EAサーバーに取り込まれている。

データは1日1回、早朝に前日分のデータが、OBIC7から抽出され、Dr.Sum EAサーバーに

取り込まれている。分析用のデータは、2011年11月より蓄積されており、その数は2013年4月現在で、売上データが約130万件、仕入れデータが約120万に上る。Dr.Sum EAで作成される定義数は100種類を超えている。

経営層から現場まで広く活用データ抽出・集計作業から解放

Dr.Sum EAは、全社員が使えるようになっているが、部門や役職によりアクセス権限が設定されており、アクセス権限のあるデータしか使用できない設定になっている。谷沢氏は、「Dr.Sum EAでは、データ構造がツリー形式で表示されるので、アクセス権限の設定も非常に楽にできました」と話す。

また谷沢氏は、「Dr.Sum EAは、レスポンスもよく、直感的に使えます。また、いろいろな切り口でレポートを出力できます。官公庁に提出しなければならない資料も1クリックで作成できます。Dr.Sum EAの導入により、現場の依頼で基幹システムからデータを抽出して集計表を作成する作業から解放されました」と話す。

以前は、現場からレポートの作成依頼があると、基幹システムから直接データを抽出、集計して、レポートを作成しなければならなかった。Dr.Sum EAには、必要なデータが網羅されているので、現場の要望に迅速に対応することができる。

現場の利用者の評価について谷沢氏は、次のように語っている。

「以前のBIツールに比べ、Dr.Sum EAは非常に使い勝手がよく、より詳細なデータが取れるよ

うになったと現場では好評です。営業部門はもちろん、管理部門でも広く使われています。現在、開発中のレポートが完成すると、営業担当者が1日かけて手作りしていたレポートが1～2時間でできるようになります。費用対効果は、非常に高いと思います」

グループ企業でもDr.Sum EAを導入さらに大きなシナジー効果を期待

今後、高島ではグループ企業4社にも、Dr.Sum EAを展開することを検討している。谷沢氏は、「この4社は、基幹システムにOBIC7を導入しているので、今回の経験やノウハウを生かしながらDr.Sum EAを導入することができます。グループ企業でDr.Sum EAを使うことで、さらに大きなシナジー効果を期待できます」と今後の期待を話している。

導入製品・サービス

Dr.Sum EA

大容量のデータを部署間や会社規模で集計分析するための多次元高速集計検索エンジン。集計・検索、レポート生成、データ統合・更新などの機能を、目的に合わせて優れたコストパフォーマンスで実現する。

Dr.Sum EA Datalizer for Web

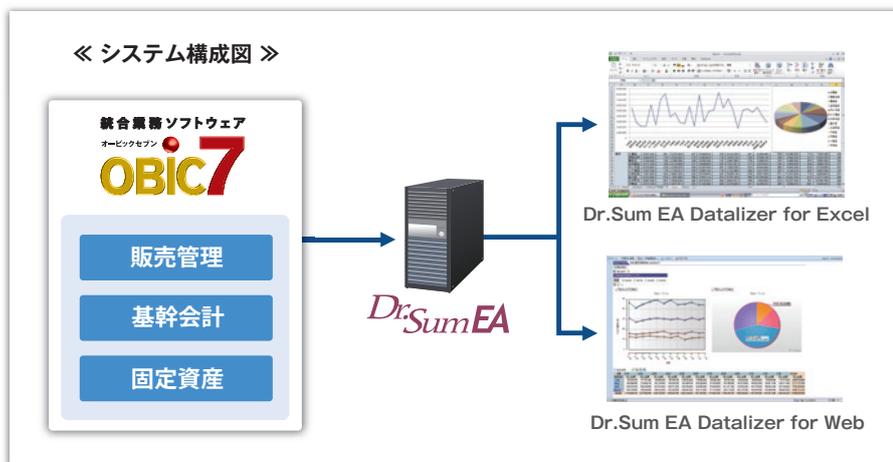
業務上必要としている定型レポートやデータ検索画面を、ノンプログラミングで手軽に作成・登録可能。見たいレポートメニューをクリックするだけで、誰もが簡単にデータを取得できるため、情報を素早くビジネスに生かせる。

Dr.Sum EA Datalizer for Excel

Dr.Sum EAからの集計データをビジネスシーンで使い慣れたExcel上で集計することが可能。利用者の目的に応じて、自由な集計からレポート作成、さらに高度なOLAP分析まで幅広く対応できる。

BIコンサルティングサービス

Dr.Sum EAおよびMotionBoardの使用法のトレーニングやデータインポート、データベース設計、集計画面設計、ダッシュボード画面設計などのコンサルティングを提供。



ウイングアーク1st株式会社

www.wingarc.com

E-mail: tsales@wingarc.com

【本社】TEL: 03-5962-7300 【大阪】TEL: 06-6225-7481 【名古屋】TEL: 052-562-5300

【福岡】TEL: 092-292-1092 【仙台】TEL: 022-217-8081 【札幌】TEL: 011-708-8123 【新潟】TEL: 025-241-3108

本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。掲載内容は2013年8月現在のものです。



CSD008C1702